

第2回花巻市行政評価委員会会議録（しごと部会）

1 開催日時

平成28年8月17日（水） 13時30分～15時10分

2 開催場所

花巻市花城町1番47号 生涯学習都市会館（まなび学園）2階 第2学習室

3 出席者

委員 5名

影山部会長、高橋勉委員、佐藤委員、戸来委員、高橋セキ子 委員

事務局、施策主管課

4 課題及び報告事項

◆施策：観光の魅力向上

- ・クラシック街道の周知はどのようにしているのか、またアンケートは実施しているか。
→旅行会社を通して宣伝している。クラシック街道のみのアンケートは実施していない。
- ・アンケートを実施して意見を反映させてはどうか？
- ・花巻市は交通網の利便が良い。せつかくの交通の利便性を活かしてきれていないのではないか。
- ・スマホをかざすと情報が見られるような工夫（2次元コード）をした案内地図があれば良いのではないか。
- ・小規模団体の観光客が多く、特に若者はインターネットを調べてやってくる。県外の大都市から人を呼ぶにはインターネットを活用すべき。花巻の魅力を全国にばらまいてほしい。
- ・北海道新幹線の開通により盛り上がっている地域もある。それにあやかって花巻にも寄ってもらえるような企画はできないものか。小規模の旅館では売り込みに限界があるため、行政の力で何とかならないものか。
- ・観光客のニーズの変化、観光ルートを巡るためのアクセスについて、団体ツアーでの旅行から少人数での旅行が多くなっていると感じている。また、宿泊客が減少しているため、温泉の魅力はどうアピールしていくかが問題。必ずしも宿泊を目的としない旅行者が増えているのであれば、観光地を巡りやすい交通アクセスを考えるべき。現状では、宮沢賢治記念館、新渡戸稲造記念館、高村光太郎記念館の3カ所を巡るだけでも、丸1日かかってしまう。
- ・事業内容をみると、祭りのような単発のイベントが多い。通年で観光客を呼べるような事業に資金を使ってはどうか。

- ・鉛温泉、愛隣館、大沢温泉などでは各々で工夫した戦略を立てている。ニーズは個別化しているため、全体を一緒くたにした戦略では限界があるのではないか。
- ・花巻まつりについて、まつり終了後に山車を解体してしまうのはもったいない。ねぶたのように、山車をいくつか展示することで花巻まつりのアピールができるのではないか。
- ・太鼓や笛などのお囃子の練習は、町内ごとではなく、市で統一した場を設けてはどうか。
- ・表中にはないイベントについて、東和の泣き相撲、大迫の早池峰神楽、石鳥谷のたろし滝などをどのように観光に結びつけているのか。
→観光資源の売り込みは当然必要だと考えている。ただし、民間から上がってきたイベントを市で囲ってしまうわけにもいかない。
- ・遠野市では年間行事カレンダーを作っている。真似する必要はないが、トータル的に年間のスケジュールを見せられるものがあれば、いつ来れば何があるかというのが分かる。ネットなどでもPRできると思う。
- ・観光協会では若い者が様々なことをしようとしている。予算が少ないため市でも支援してもらえないだろうか。
- ・おいしいクッキー、こけし、傘などの特産品の推奨が足りない。もっとすべき。
- ・補助金額を入り込み数で割ってみたところ、ずいぶんと開きがある。効率性を考えた場合、良い補助金の出し方はないものか。
→伝統行事のような昔からやってきているイベントは、事業費の大半が補助金という場合が多い。そういったイベントと新しいイベントを比較すると、どうしても開きが出てしまう。

◆成果指標「観光施設、イベント入場者数」について

- ・的確ではあるが、詳しい指標もあってはどうか。
- ・入り込み数を県内と県外で分けてはどうか。
- ・全体が増えればよい。
- ・数値だけでは評価できない面もある。定性指標もあって良いのではないか。
- ・季節ごとの入り込み数の推移を分析することでターゲットを絞りやすく、戦略も立てやすいのではないか。また、事業の評価もしやすい。

◆施策を構成する事務事業について

- ・観光形態の変化を把握する。団体客から少人数への変化など。場合によっては調査事業を立ち上げてはどうか。
- ・情報発信の支援をする。事業者向けHPの作り方講座などを企画してはどうか。
- ・花巻の産業（農業、工業）とタイアップした事業や5.6人での体験型のものを提案してはどうか。
- ・「You Tube」のような動画サイトで花巻を宣伝してはどうか。

- ・まつりなどの単発イベントだけではなく、その他の観光地にも行ってもらえるような考え方が必要ではないか。「点」ではなく、点と点をつなぐ「面」の考え方。
- ・温泉旅館では若者が積極的に戦略を考えて実施している。南温泉峡でやっている朝ごはんプロジェクトなど。困っている事業者のために、若者の知恵を貸してあげられる取り組みができないか。

◆施策の総合的な評価について

課題、方向性に問題はないが、課題解決のために先ほど挙げられたような新たな事業を考えたらよい。

◆シート記載内容について

特になし。

5 その他

部会長代理の選出

- ・高橋勉委員を部会長代理に選出した。

第2回行政評価委員会会議録（暮らし部会）

1 開催日時

平成28年8月8日（月） 午後1時30分～3時30分

2 開催場所

花巻市花城町1番47号 生涯学習都市会館（まなび学園）2階 第2学習室

3 出席者

委員 6名

鈴木部会長、高橋委員、吉田委員、尾美委員、福盛田委員、木村委員
事務局、施策主管課、事務事業担当課

4 課題及び報告事項

◆施策：自然環境の保全

・早池峰環境保護の関係で、登山者のマナー向上等のため、どのような啓発活動を行っているのか？また、マナーの悪さが原因の環境破壊などの例はあるか？

→マナーに関する啓発は、高山植物等盗掘防止パトロールの方が指導しているほか、パンフレットや市ホームページに登山マナーについて掲載している。

・マナーが悪いのは地域の人？地域外の人？

→地域外の人が多いと聞いている。トイレマナーに関しては地元の人が多いと聞くこともある（昔はトイレがあったため、携帯トイレを持っていく習慣がないのかも・・・）。

・早池峰山は携帯トイレを使ってくださいという面で他の山よりマナーに厳しい所。このことが登山者減少の一因ではないか？しっかりしたトイレを設置するべき。

→トイレ設置のため、県に要望を続けていきたい。

・環境学習推進事業で行っている環境学習チャレンジブックの配布だが、H27実績は小学校1校に配っただけとなっている。もう少し積極的に配ってはどうか？市内の全ての小学校にPRするべき。小さいころからの学習が大事。

・学校の都合等で環境学習に取り組む時間が取れないのであれば、PTA単位で実施するのも一つの手では？

→そうですね。

・環境学習推進事業の成果指標「環境マイスターを派遣した研修会等に参加した市民」について、小学校数の減少や少子高齢化などの影響を踏まえ、新たに目標値の設定を行うとのことだが、どういう考え方で設定するのか？

→現在の目標値の80%で設定することを考えている。

・市民アンケート「自然環境を守るための行動を実際に行っている市民の割合」を指

標としているが、市民とすれば、自分が何をすれば環境を守るための行動になっているか分からないのでは？例えば「一斉清掃に参加している」等、馴染みのあるものでアンケートしてはどうか？

- ・在来生物対策事業でゼニタナゴの保全に取り組んでいるが、「矢沢地域の自然保護を考える会」のメンバーも高齢化が進んでおり、活動出来なくなってくる可能性もある。今後の活動をどう考えているか？

→会への支援は継続していきたい。「メンバーの高齢化に伴い活動出来なくなったから市職員が実践する」というものではないと思うので、(後継者育成等) 地元の機運を高めてほしい。

- ・環境マイスターは何人いるのか？

→H27は20人。H28は21人。

◆成果指標について

- ・施策の目指す姿に沿った指標であり、目標値の設定も妥当だと思われる。

◆事務事業について

- ・自然環境保全活動推進事業という事業名だが、内容は早池峰山関係のみ。今後この内容なのであれば、事業名に早池峰山の名前を入れてはどうか？事業名は分かりやすくしてほしい。
- ・自然環境保全活動推進事業(関係して) 環境保全に関する周知をもっと進めるべき。
- ・市民の環境に対する意識がもっと高まってくれば、さらに成果の向上が図られる他の事業が見えてくるのではないか。
- ・ハヤチネウスユキソウ誕生80年記念事業において、「全体的な実施計画が遅れたことから事業実施の告知が遅れた」とのことだが、これはあってはならないこと。
- ・河原の坊施設管理事業で「河原の坊総合休憩所開館日数」を活動指標としているが、登山シーズン中に開館しているのが当たり前では？例えば「関連施設の点検回数」とか「関連施設の修繕件数」とか。少し検討しては？

◆施策の総合的な評価について

- ・早池峰山の環境保全やゼニタナゴの保全に取り組んでいるが、市内には他にも自然がある。もっと広く目を向けていいのでは？
- ・自然を守るだけでなく、自然を豊かにすることも必要。この考えを多くの市民に広めることも必要だと思う。

◆記載内容について

- ・施策評価シートの「5 施策を構成する事務事業の検証」欄にある「施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか」において、環境マイスターを講師とした環境学習講座の開催を検討する。としているが、平成28年度予算に必要経費を計上しているのであれば、ここの表現は「検討する」ではなく「予定している」等の表現ではないか。

第2回花巻市行政評価委員会会議録（人づくり・地域づくり部会）

1 開催日時

平成28年8月8日（月） 午後3時30分～午後5時15分

2 開催場所

花巻市花城町9番30号 花巻市役所新館 1階会議室

3 出席者

委員 4名

堀籠部会長、高橋委員、佐藤委員、板垣委員
事務局、施策主管課

4 課題及び報告事項

◆施策：市政への参画・協働機会の拡充

・「市長へのはがき」などの問い合わせに対する回答は100%か？

→匿名のもの以外は100%である。

・広報活動充実事業（ゼロ予算）の事務事業評価シートは作成しないのか。お金を使っていなくても、どういう知恵を使って事業実施しているのか提示することは大事である。

・成果指標はアンケート「あなたは***だと思えますか？」の結果ではなく、ほかに良いものはなかったのか。例えば、審議会の公募委員の充足率などはどうか？

→指標としてここに出てこないとしても重要な視点である。

・成果指標については、後で「施策評価検証シート」で議論するが、「機会の確保」だけではなく、どう行動したかがわかるものが必要である。

・成果指標の実績値が向上している理由は分析できているか？

→「市長へのはがき」は古い時代の広聴の手段であった。今はパソコンやスマホなどネット環境が充実して、ほとんどがメールでの問合せ。制度が周知され、気軽に問合せできる環境が整ったことにより向上したと考える。

・施策評価シートでは成果の向上の背景が読み取れない。成果指標の実績の増減の理由の分析をきちんとすることが重要である。

・事務事業評価シートによると、「市民参画の有無」の欄に「対象外」とあるが、どういうことか？事業内容からいって本末転倒ではないか？

→まちづくり基本条例では、重要な計画の策定、条例の制定改廃などを市民参画の対象としており、この事業自体は対象外となっている。

・施策の成果指標：「市政へ意見を述べる機会が確保されていると思う市民の割合」が

伸びている一方、政策の成果指標：「市民と行政の協働によるまちづくりが進められていると思う市民の割合」（中期プランで政策の指標としている）は、伸び悩んでいる（市民アンケート G-3 31.5%→30.9%）。政策（＝親）と施策（＝子）の成果の伸びの違いの背景はどう考えるか？

→「市民と行政の協働によるまちづくり」の代表としてコミュニティ会議があげられるが、しっかりとした理解のもと制度をスタートしたとはいえ、協働の意識が低いと思われる。

- ・協働と参画の横並びではなく、政策（＝親）＝協働、施策（＝子）＝参画と別れてしまっているのではないか。
- ・政策（＝親）の成果指標を改善するために施策（＝子）の成果指標をどうリンクさせていくかという視点で、政策と施策の関係を意識した指標の設定が必要ではないか。

◆成果指標について

- ・「参画」についての成果指標しかないのが解せない。「協働」について、「市と市民の協働による事業数」などほかに適正な成果指標が設定できないのであれば、政策の指標（市民アンケート：「市民と行政の協働によるまちづくりが進められていると思う市民の割合」）をそのまま施策の成果指標とすればよいのではないか。
- ・何もせず、世の中が変わった（ネット環境の充実によるメール問い合わせの増）から成果指標の実績値が向上したのであれば、目標があっても仕方がないのではないか。
- ・平成35年度において50%という目標設定であるが、そもそもそういう設定でよいかという疑問はある。目標設定値に根拠はないが、少しずつ%を向上させていくことは間違いではない。
- ・アンケート結果を成果指標とすると、何か事件が起きれば数値が上がる（例えば、マルカンなど）。基本的にアンケート結果では受け身の事業になってしまう。実際にどれくらい行動しているかを現すために、件数や参加者数などを成果指標に設定すべき。
- ・アンケート結果は主観であるから、行動した実績（客観）との両方が欲しい。
- ・アンケート結果について、クロス集計があり、年齢層によって温度差がある。ターゲットを絞って、成果が低い層（若年層）をテコ入れするための成果指標を設定してはどうか。
- ・成果指標の達成状況に関する分析が不十分である。成果が少しずつ向上している理由について、具体的な記述が必要である。

◆施策を構成する事務事業について

- ・(2)の広聴の充実については、施策評価シート上、取組内容がおもてに出てきていないように見える。「④シート記載内容について」にも関連するが、記載内容に不足が

ある。

- ・「参画」はあるが、「協働」については、行動に結びついていないのではないか。モデル事業の実施などが必要ではないか。
- ・次回 4-2(2)「公益的活動への支援」など関連する施策との連携も必要。
- ・職員向けの研修を実施しているのであれば記載すべき。
- ・参画・協働の機会を確保しているということからすると、目指す姿の実現に貢献している。また、いずれも市がなすべきことであり、市の関与の必要性は低下しない。ただし、やり方は工夫が必要である。
- ・「協働」に関する取り組みが見えてこない。「わんこそば大会」など協働で実施している事業をきちんと市民に知らせること。
- ・そもそも、地域づくり課だけではなく、全庁的に関わっていること。とりまとめは地域づくり課であるが。
- ・アンケート結果は思い込みの結果であり、成果指標とすると矛盾が生じる場合がある。市長との距離が近くなった（市長がはなしを聞いてくれる）と思うから、今回の成果指標の数値は上がっているが、コミュニティ会議に関しては関心が薄いままである。
- ・「参画」に関して突き詰めていけば、選挙に行くことが一番の行動である。
- ・市政に関心を高めてもらう事業（例：投票率向上、コミュニティ会議への参加促進など）を通じて「協働」についての成果を高める。
- ・若年層（10～30代）の関心を引き上げるための事業も必要。

◆施策の総合的な評価について

- ・課題に対する今後の方向性が対応しておらず、具体策が不十分である。
- ・問題点のとらえ方が甘い。例えば、「市民参画ガイドラインの運用及び検証」とあるが、市民参画・協働推進委員会が機能していない。市側が準備した資料に2、3意見を述べるだけである。また、パブリックコメントに関しては、専門的な内容であるため応募件数が少なく、（閲覧資料が）1か月間放置されている状態となっている。関心を持った人はすぐに反応するので募集は2週間程度で十分である。
- ・そもそも、参画・協働に関しては、市政の基盤であることから、「人づくり・地域づくり」ではなく、「行政経営」ではないか。

◆シート記載内容について

- ・①、②で挙げたように、様々な取組を行っているのに「施策評価シート」に記載されていない。